

週ごとの指導計画(単元指導計画) 新様式例

高等学校 令和5年度(2学年用) 教科 国語

教科: 国語 科目: 言語文化 単位数: 2

対象学年組: 第 2 学年 1 組 ~ 5 組

教科担当者: (1 組: 福間) (2 組: 福間) (3 組: 福間) (4 組: 青木)

使用教科書: (『新編 言語文化』東京書籍

使用教材: (「新訂総合国語便覧」第一学習社

領域名: (読むこと)

単元の目標:

【知識及び技能】本文に登場する漢字を読んだり書いたりし、さらに本文で使用され

【思考力、判断力、表現力等】随筆の読み方の基本(取り上げられている物事や、物事に対する筆者の見解など)

【学びに向かう力、人間性等】桜に対する日本独特の感性について理解を深め、筆者の桜への思いについて文章にまとめ

単元名: (さくらさくらさくら

単元の評価規準:

【知識・技能】	【思考・判断・表現】
我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。	「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。

実施予定: 4 月 2 週 ~ 5 月 2 週

	具体的な指導目標	指導項目・内容	知	思	態	
第1時	内容に即して三つの部分に分け、その根拠を説明する。	桜に対するイメージや筆者について知っていることを発表する。 本文を通読し、三つの部分に分けて、それぞれの話題をまとめる。		○	○	行重 ワー
第2時	第一段の要点を考え、本文全体における意味について考察し、その内容を説明する。	第一段における要点がどの部分に示されているかを考え、それが本文全体でどのような意味を持つかを考察する。	○		○	行重 ワー
第3時	日本と外国での桜に対する感じ方や考え方の違いを具体例から読み取り、それについて根拠をもって説明する。	具体例から日本と外国での桜に対する感じ方や考え方の違いを理解する。		○	○	行重 ワー
第4時	短歌三首の内容と詠まれた心情を理解し、その内容を説明する。	第三段を音読し、短歌三首の内容と詠まれた心情について考える。	○		○	行重 ワー
第5時	筆者の桜への思いを整理し、その内容を説明する。	短歌の内容と詠まれた心情についての考察を踏まえて、筆者の桜への思いを整理する。		○	○	行重 ワー

第6時					
第7時					

科目 言語文化

単位

(5組：青木) (組：)
)
)

ている以外の読み方や使われ方の知識を得る。

への着目)を理解し、別の随筆を読む際にも活用する。

り、発表や討論を通して自分の考えをさらに深めようとする。

)

【主体的に学習に取り組む態度】
進んで日本独特の桜に対する感性について理解を深め、学習課題に沿って本文や引用歌の考察を踏まえながら筆者の桜への思いを整理しようとしている。

評価の方法	実績（実施日）					
	1組	2組	3組	4組	5組	組
功観察 -クシート	4 / 2 4	4 / 2 4	4 / 2 4	4 / 2 4	4 / 2 4	
功観察 -クシート	5 / 1	5 / 1	5 / 1	5 / 1	5 / 1	
功観察 -クシート	5 / 8	5 / 8	5 / 8	5 / 8	5 / 8	
功観察 -クシート	5 / 1 0	5 / 1 0	5 / 1 0	5 / 1 0	5 / 1 0	
功観察 -クシート	5 / 1 5	5 / 1 5	5 / 1 5	5 / 1 5	5 / 1 5	
